広報とうや湖
発行日　平成29年9月11日
通巻／第138号

洞爺湖町 地域おこし協力隊

地域おこし協力隊が出会った素敵な人紹介

ハーブでおもてなし ハーバルランチ 高橋敬子さん（月浦区）

月浦にあるポロモイスタジアムの横を車で登ること約10分。洞爺湖を一望できる丘の中腹に、ハーブの畑とモンゴル式のテント「ゲル」が現れます。ここで、ハーブを使った体験活動を提供しているのが高橋敬子さん。同じ年頃の子どもを持つお母さん3名で育児をしながら始めた「ハーバルランチ」も今年で10年目を迎えました。

高橋さんが月浦に来たのは、2000年噴火のおよそ2年後。当時は、洞爺湖に訪れる観光客の多くが、温泉街での滞在でした。「せっかく風光明媚な洞爺湖を訪れたのなら、その風景の中でできる、自然を活かした新しい体験型のアクティビティを」ということで、月浦にあるアロマテラピーのお店「tetote（テトテ）」と合同会社を立ち上げたのが始まりです。今は、㈱春香の体験部門として独立し、女性客を中心に、幅広い年齢層の人が訪れます。

高橋さんは「月浦からの眺めは、湖畔から見るのとも違うし、高台から見るのとも違う。観光地としては交通の便があまり良いとは言えないこの場所で、失敗したらどうしようとあれこれ考えるよりもまずはやってみよう！という気持ちがあったからここまでこられた」と言います。

そんな敬子さんの次なる目標は、ハーバルランチ特製ハーブをたっぷり使ったソーセージの商品開発です。「洞爺産ハーブを使った加工品で、名産品になるようなものができたら」とイメージは膨らみます。

「結婚したら、漠然と田舎暮らしがしたいと思っていた。ある日、今がそうだと気づいた」と、明るく笑う敬子さんの横顔が印象的でした。

インタビュアー
地域おこし協力隊
渡邊紀子

今月のワンショット

親子ふれあい遊び「おとうさんといっしょに遊ぼう」で手作りのおもちゃを使って遊ぶ親子

東奔西走

今月号は避難所開設体験学習会を取材しました。終了後、生徒に感想を聞くと「みんなで協力することの大切さを学んだ」「自分ができる最大限のことを考えて行動したい」などと話してくれました。

私も職員として、広報担当として、どう行動すべきなのか考える学習会でした。

（H・S）

人口と世帯の動き 7月31日現在（先月比）

男	4,263人	（＋3）
女	4,891人	（－3）
計	9,154人	（±0）
世帯	5,026世帯	（＋17）

■編集・発行／洞爺湖町総務部企画防災課　広報統計グループ　〒049-5692 洞爺湖町栄町58番地
☎0142-74-3004 FAX0142-74-2121 ホームページアドレス http://www.town.toyako.hokkaido.jp/ ■印刷　文栄堂印刷